

# 鴨川ふるさと会だより

— 第13号 —

鴨川ふるさと会発行 事務局：〒296-8601 千葉県鴨川市横渚1450番地（鴨川市役所企画政策課内） TEL：04-7093-7828

## 市制施行10周年記念式典 石川会長「市政功労者」に

1月31日、鴨川市の市制施行10周年を祝う記念式典が、市役所で開催されました。式典には、千葉県知事代理の高橋渡副知事、浜田靖一衆議院議員、近隣市町村長などの来賓をはじめ、150人が出席しました。

平成17年2月11日に、旧鴨川市と旧天津小湊町の対等合併により誕生した新鴨川市の、記念すべき10周年の節目として、未来に向けた新たな門出を祝いました。

長谷川市長は、「この10年



間で一つひとつの事業を着実に積み上げてきた。先人の努力によりつくり上げられたこの素晴らしい鴨川のまちを受け継ぎ、これからも全力で発展させていきたい」と式辞を述べました。

また、式典では、市政の発展に寄与し、その功績が特に顕著と認められる個人又は団体に対する功労者表彰が行われ、本会の石川忠男会長が市政功労者として表彰をされました。

石川会長は、本会の創設時から16年の長期にわたり、会場の中心的役割を担い、ふるさと納税の推進をはじめ、鴨川市のまちづくりの在り方や活性化に向けた提言を行うなどの積極的な活動を主導してこ



られました。さらに平成25年には、市の地域経済振興の促進のために設置された「鴨川市企業等誘致委員会」の委員として参画し、本会のこれまでの活動を踏まえた企業誘致や雇用促進策を提言するなど、会を代表して市政発展のために尽力されました。こうした市への長年の功績が称えられ、市政功労者の一人として表彰を受けました。

### 《鴨川市制施行10周年記念市政功労者》

#### 【地方自治功労】

刈込 勝利、西川 和広、鈴木 正明、谷 一浩、渡邊 隆俊、尾形 喜啓、鈴木 美智子、石川 忠男、庄司 英一

#### 【産業功労】

末吉 一夫、田村 駿、谷 一浩(再掲)、加藤 和夫

#### 【保健衛生功労】

中嶋 八良、天津小湊介護予防サポーターの会

#### 【福祉功労】

榎本 豊、栗原 定雄

#### 【教育文化功労】

Edson Perk Foster Jr.、酒井 龍一、佐久間 秀子、安田 耕太、仲澤 博、大塚 實、花山 藤太郎、寺尾 忠行、山下 洋介、鴨川市体験農漁業推進協議会、城西国際大学、学校法人 早稲田大学、千葉ロッテマリーンズ  
(順不同・敬省略)



会員のページ ⑥

「房総入門」  
高橋 瞳

平成10年に設立された鴨川ふるさと会はずでに16年を経過し、会則に掲げられた「首都圏とふるさととの相互交流を醸成」してきました。設立当初からの会員の一人として近況報告と今後の希望を述べさせていただきます。

昨年10月、私は「日本入門ー本文対応英訳付きー」という本を小学館から出版しました。内容は富士山にはじまる日本の風景の美しさ、おもてなしに現れる日本人の心の美しさ、歌舞伎や茶道・華道、浮世絵などの伝統美、天皇や古事記・日本書紀、日本国憲法など日本社会について記述し、英訳を付して日本を紹介する際の一助になることを念願しておりますが、今回は「房総入門」を書きたいと考えています。



▲高橋氏の著書 「日本入門」

す。

一、首都圏と鴨川ふるさと云

あるいは首都圏とふるさと房総

友人に行楽地としての鴨川の印象を聞くと、温暖、海、シーワールドという語句が浮かび、良いイメージはあるが、とりたてて行ってみたいとは思わないという回答が多い。そして対比されるのが伊豆・箱根である。そこには温泉があり美術館があり旅館やホテルが集積しており、行楽地としてまず最初に挙がつてくる。

ただ、ここで気づくことは鴨川と伊豆・箱根という比較対象の妥当性である。箱根町に對し鴨川市であり、伊豆に對しするならば房総である。そして房総半島という広さになると鴨川温泉を含む相当数の温泉旅館やホテルが挙がつてくる。また上総掘り、証誠寺

(狸ばやし)、鋸山、菱川師宣、里見八犬伝、野島埼灯台、フ

ラワイライン、高家神社、上三原の大樟、仁右衛門島、鴨川シーワールド、大山千枚田、清澄山、誕生寺、龜山湖、養老溪谷、行元寺(葛飾北斎「神奈川沖浪裏」の元といわれる波の伊八の欄間彫)、狩野正信(室町時代に始まる絵師狩野派初代) 生誕の碑などが挙げられる。

また首都圏で鴨川や房総半島の温泉を知っている割合は、私の周辺で推測すると8人に1人程度であり、鉱泉のイメージがまだ残っている。行楽面からみる限りでは、今後の広報を含め「首都圏とふるさと房総」という広域な捉え方が望まれる。

二、行楽地としてみた場合、伊豆・箱根と房総では歴史的、経済的集積にやや差があることは否めない。さらに大きいことは正月の箱根駅伝の宣伝効果である。

ただ、伊豆・箱根に行つて感じることは街が混んでいることであり、また箱根駅伝は大学生の駅伝であり、多くの人が入力できるものではない。この点を踏まえると、ふるさと房総としては一般参加型の行事を開催する余地があることに気づく。

中学3年の時に私は安房郡下の青年団による富浦く鴨川

# 江見3地区の統合小学校

## 「江見小学校」4月開校へ



曾呂小学校「応援合戦」

市では、今年4月に、江見3地区(曾呂、太海、江見)の小学校を統合し、新たに「江見小学校」として開校することとしています。また、同地区の幼稚園や保育園についても統合し、幼保一元化施設「江見幼稚園」、「江見保育園」として、同じく4月に開園します。

新小学校は、旧江見中学校の校舎を活用するため、耐震補強や外壁、内装工事などの大規模改修工事を行っています。また、新幼稚園と保育園は、小学校に隣接する形で新築されます。

この統合に伴い、今年度限りで閉校となる、3地区の各小学校は、現在のグラウンドで行う最後の運動会を開催し、閉校に向けて、それぞれ思い出を刻みました。



江見小学校「風船に願いを」



太海小学校「フラワー音頭」



間駅伝に鴨川町チームの一員として駆り出された経験があり、中学生の走行距離は年齢的に3キロを限度としていたにも拘わらず千歳〜南三原間7キロ弱を走って大層苦しかったことを憶えている。これをヒントに保田〜館山〜鴨川〜小湊間駅伝を首都圏チームに呼びかけ開催することは如何であろうか。房総菜の花駅伝、フラワーロード駅伝という様なネーミングを考え、花や海の幸を賞品やお土産にすれば参加チームも和やかになると想像される。また、木更津〜マザー牧場〜富津〜もみじロード〜鋸山〜館山〜南三原〜北三原〜曾呂〜鴨川〜天津〜清澄山〜誕生寺間自転車ロードレースも考えられる。

三、太平洋に面した鴨川は海

が売りものである。現在、私の手許にある鴨川ふるさと大使の名刺には魚見塚展望台からの太平洋眺望写真が載っている。ただ美しい海も地球が活動期に入った今、津波の心配を孕む。前原海岸遊泳客に対しては近隣高層建物のご協力を頂いて定期的な避難訓練が実施されていると思われるが、鴨川の海岸は安心であるという心象が重要なポイントになると思われる。延宝房総沖地震、元禄地震、宝永地震など鴨川にも大きな影響があった地震について虚心坦懐にみつめ直し、東日本大震災時の教訓として知られる「津波でんでんこ」を参考にしたいものである。

なお関東大震災の復興計画を作り東京の昭和通りなどを完成させた後藤新平が旧鴨川市内の津波対策を考えたらどの様になるであろうか。元禄地震のとき逃げ登って助かった人もいと伝えられる鴨川市前原の津波避難丘は標高約10メートルであり、この高さを目途にした場合は嶺岡トンネルから128号を東へ進み亀田病院の北側を通る旧国道から浦ノ脇の国道バイパスまでを標高10メートルの道路とし、津波襲来時の逃げ場所とする案を作るかも知れない。

これは津波でんでんこの許容距離内であり、住民の命を守り、海との調和を図りつつ長期的ターゲットとして町づくりに進める必要性を意味する。この様な対策を各地域の実情に即して実施することが行楽地としての安心感を抱いてもらうことに繋がり、房総半島全体の魅力向上に貢献する。後藤新平は計画規模の大ききから大風呂敷と揶揄され、復興計画は予算上大幅に縮小されたが、後に計画がそのまま実行されていればよかったという悔恨が聞かれたという事実は、300年スパンの都市計画や地震対策の必要性の証左であると考えられる。

**【高橋 瞳 (たかはし ひとみ) 氏のご紹介】**

1944年生まれ。田原中・安房農高卒業。立教大学大学院において、経済学科研究科修士課程を修了。高橋公認会計士事務所を開設し、事業再生支援コンサルタントとしても活動をしている。

**<公職等の略歴>**

日本公認会計士協会副会長／立教大学大学院教授／税理士試験委員／預金保険機構監事／日本郵政株式会社取締役・監査委員会委員長／藍綬褒章受賞

**事務局からのお知らせ**

**会費の納入を  
お願いします**

平成23年度から導入している年会費制。会員の皆様のご協力のもと、本会の貴重な運営財源として活用しております。

今年度は、9月30日を納入期限として設定させていただきましたが、本会報の発行時点において、会費が未納の方には、払込取扱票を同封させていただきましたので、会費の納入につきまして、ご協力をお願いします。

**ふるさぽーと寄附金  
(ふるさと納税)の  
本年度実績**

本会では、「鴨川市ふるさぽーと寄附金(ふるさと納税)」への積極的な協力を勧奨しています。

今年度も多くの会員の皆様から温かいご支援が届いています。今年度のこれまでの実績についてご報告します。2月末現在において、全体としては110件(267万円)

で、このうち会員の皆様からのご寄附は23件(88万円)でした。皆様のご厚意に深く感謝申し上げます。

なお、「鴨川市ふるさぽーと寄附金(ふるさと納税)」のお申し出は、随時受け付けていますので、今後ともご協力をお願いします。手続き等につきましては、市の専用サイト「鴨川ふるさぽーと」をご覧ください。ご質問は、本会事務局までお問い合わせください。

**掲載記事を  
募集します!**

事務局では、会員の皆様からの「鴨川ふるさと会だより」への掲載記事を募集しています。日頃感じていることや、ふるさと鴨川への想い、身の回りの出来事などを会員ページに掲載してみませんか。

今号では、会員の高橋瞳さんに「行楽地として、鴨川・房総に求めること」について、寄稿していただきました。ありがとうございます。今後、この「鴨川ふるさと会だより」を、会員同士の交流を深める場、報告の場などとして、どうぞお気軽にご利用ください。

# 第2回ふるさとセミナー 「後藤義光見学ツアー」に参加

2月14日、鴨川市教育委員会主催の企画展「生誕200年記念・後藤義光〜鴨川での足跡〜」(平成27年3月8日(日)まで)に併せて企画された「後藤義光見学ツアー」にふるさと会として参加しました。

今回のセミナーでは、これまで何度も講演をいただいている、鴨川市郷土資料館の学芸員 石川丈夫氏が、鴨川市内に残る、彫工の初代 後藤義光の作品とその背景などについて解説を行い、郷土資料館のほか、清澄寺(清澄)や熊野神社(横渚)を巡りました。また、セミナーの開始前には、長谷川孝夫市長より、ふるさと納税や本会の日頃の活動に対する感謝の意が述べられました。

郷土資料館では、「龍性院所蔵の獅子」「阿」「呬」「波に亀(親子)」などの作品10点をはじめ、金剛宥性が発願した「安房国百八ヶ所地藏巡礼」の扁



鴨川市郷土資料館での作品鑑賞

額、天津芝町の山車彫刻など、市内に残る義光の作品22点が展示されており、講師の詳細な解説を聞きながらじっくりと作品を鑑賞しました。展示されている作品は、寺や神社の建物に取り付けられ、本来は遠くから見ることを想定して制作された物ですが、間近で鑑賞しても細部まで非常に精巧に彫られているとの解説がありました。実際に「波に亀」という作品を見ると、亀の首部分の皮膚の伸縮の様子もわかるほど精巧に作られていることがわかりました。清澄寺では、まず昼食に精進料理をいただきました。精進料理とはいえ、量も十分で、一品ごとに丁寧に作られた料理の味を堪能しました。肉などは一切使っていないのです

が、工夫を凝らした調理により、飽きることなく食事を楽しむことができました。

続いて本堂へ移動し、信仰上の理由から、一般には非公開とされる本堂や宝物館の内부를特別に見学させていただきました。この中には、明治3年当時、清澄寺の寺主であった金剛宥性の依頼のもと、50代半ばの義光が制作した宥性の等身大「地藏菩薩」やこの地藏菩薩を納めるための「厨子」などが残されています。

義光は仏師ではありませんが、これは宥性が、従来のものではなく、より人に近い地藏となるよう敢えて義光に制作を依頼したのではないかと、さらに間近で見ると、通常より唇が厚めであることなどの身体的な特徴が表れていることから、義光は、この地藏に



清澄寺の本堂前にて



精進料理 (清澄寺にて)

宥性の面影を写し制作したのではないかとの解説がありました。

熊野神社では、拜殿を見学。向拝の上下に連なる彫刻が、それぞれ三代義光と初代義光の作品であり、どちらも迫力ある作品ですが、よく見れば、作風の違いがわかることとで、皆さんじっくりと見比べていました。

「波の伊八」こと初代武志伊八郎信由や、石工の武田石翁と並び称され、安房の三名工に数えられる彫工 後藤義光。今回は、文化的にも芸術的にも貴重であるこれらの作品を鑑賞し、安房地域で活躍をした後藤義光をよく知ることと同時に、鴨川出身の高僧 金剛宥性との交流など、知られざる鴨川の歴史に触れる機会にもなりました。

後藤義光に関するお問い合わせは鴨川市郷土資料館【☎04(7093)3800】へ

## 《後藤義光と金剛宥性》

後藤義光は、現在の南房総市千倉町の出身。父親が大工職で、10代の頃から彫工の仕事に携わるようになり、23歳で江戸の彫工に弟子入りをしました。その後は鎌倉や横浜などで仕事を続け、42歳の時に故郷に戻ります。以降は、制作の拠点である安房地域に数多くの作品を残しています。

一方、金剛宥性は、現在の鴨川市平塚の出身。24歳で清澄寺の寺主となり、安房地域に地藏信仰を根付かせるため、百八ヶ所の寺やお堂を巡礼地と定め、自身の詠んだ歌を「額」として納めています。この際に「額」の多くを手掛けたのが、宥性と親交の深い義光でした。その後、宥性は京都の醍醐寺や智積院の座主、さらには大僧正に就任。宥性が京都に移ってから、2人の交流は続き、義光の法名を宥性が与えています。

また、義光は建築彫刻を、宥性は信仰を、それぞれがふるさとの安房地域に広く根付かせようと、共に多くの弟子の育成に努めていたということです。



「延命地藏菩薩像」(清澄寺所蔵)